

3 一～五類全数把握感染症

(1) 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は報告がなかった。

(2) 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は報告がなかった。

(3) 三類感染症

ア 細菌性赤痢

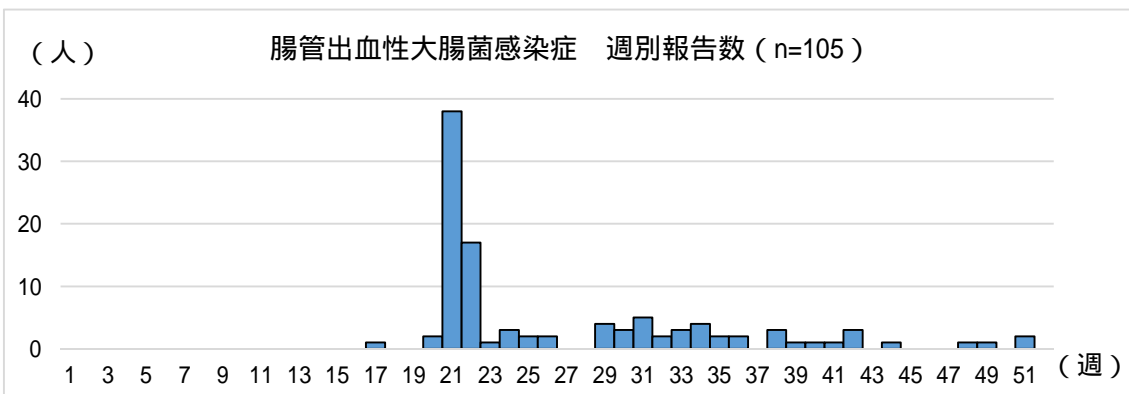
2018年は3人の報告があった。菌種は *S.sonnei* が2人、*S.flexneri* が1人であった。性別は全て男性で、年齢階級別では10歳未満1人、40～49歳2人であった。

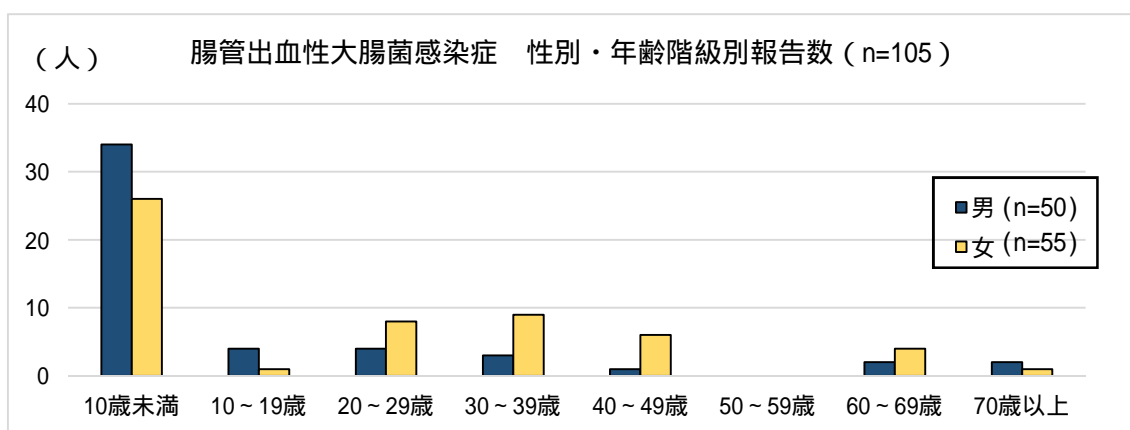
推定感染地は国内が2人、国外（フィリピン）が1人であった。また同性間性的接触によると推定される感染例が1人報告された。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

2018年は105人の報告があった。第20週から第23週にかけて同一の保育施設を原因とした血清型 O26 VT1 の集団感染事例（56人）があり、例年に比べ報告数が増加した。症状別では患者77人、無症状病原体保有者28人であった。性別は男性50人、女性55人で、年齢階級別では10歳未満60人（うち5歳未満38人）、10～19歳5人、20～29歳12人、30～39歳12人、40～49歳7人、60～69歳6人、70歳以上3人であった。推定感染地は大韓民国が1人、その他は国内であった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは3人であった。





腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別報告数 (n=105)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
026	VT1	66	0157	VT2	6
	不明	2		VT1VT2	25
0115	VT1	1	不明	VT1	2
0145	VT2	1	不明	VT2	1
0153	不明	1			

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=3)

受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地
6/18	女	23	0157 VT1・VT2	不明
7/25	男	4	0157 VT1・VT2	国内
8/1	女	6	0157 VT2	国内

ウ パラチフス

2018年は2人の報告があった。性別はいずれも男性で、年齢階級はいずれも20~29歳であった。推定感染地はいずれも国外で、推定感染国はインドが1人、インドまたはタイが1人であった。

エ その他の疾患

腸チフス、コレラは報告がなかった。

(4) 四類感染症

ア E型肝炎

2018年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別ではいずれも50～59歳であった。

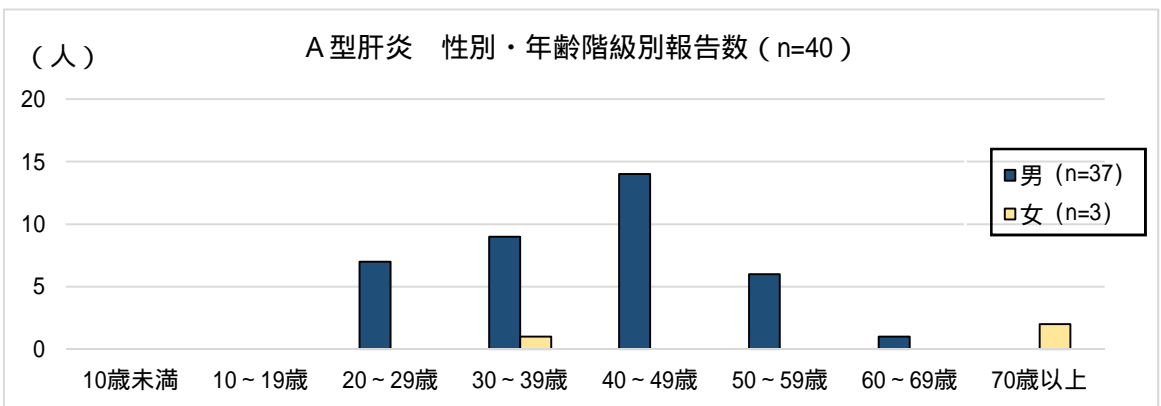
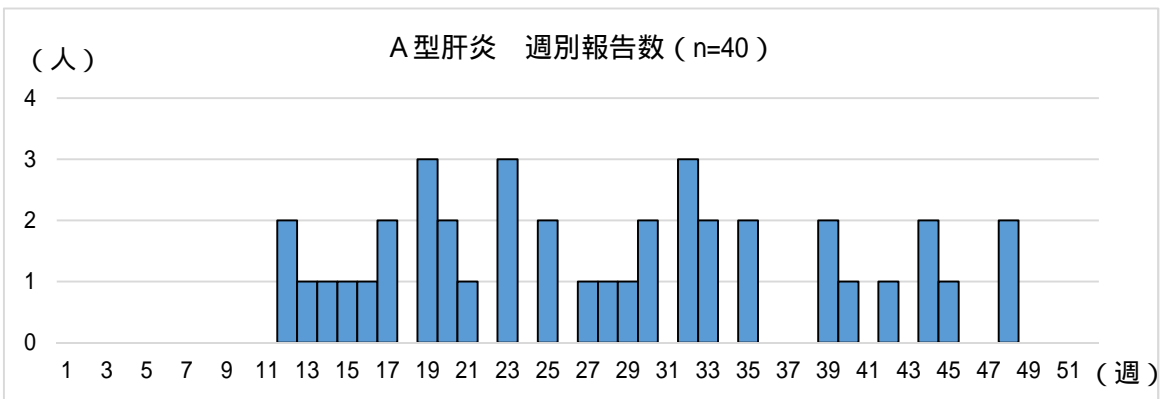
推定感染地は国内2人、中華人民共和国1人であった。推定感染経路は経口感染が2人、動物・蚊・昆虫等からの感染が1人であった。

イ A型肝炎

2018年は40人の報告があり、例年に比べ報告数が増加した。性別は男性37人、女性3人で、年齢階級別では20～29歳7人、30～39歳10人、40～49歳14人、50～59歳6人、60～69歳1人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内38人、国外2人であった。国外感染と推定された2人の推定感染国はタイ1人、ボリビア1人であった。

推定感染経路は、経口感染10人、性的接触27人、不明3人であり、性的接触27人のうち、同性間が23人、異性間2人、同性間または異性間1人、不明1人であった。



ウ デング熱

2018年は11人の報告があった。性別は男性7人、女性4人、年齢階級別は10歳未満1人、10～19歳1人、20～29歳2人、30～39歳4人、40～49歳1人、50～59歳2人であった。血清型の内訳は1型2件、2型5件、3型1件、その他は不明であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染国はインドネシア、タイが各2人、ベトナム、マレーシア、バングラディッシュ、カンボジア、ミャンマー、インド、ペルーが各1人であった。

エ 日本紅斑熱

2018年は3人の報告があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢階級別は30～39歳が1人、60～69歳が2人であった。推定感染地はすべて国内であった。

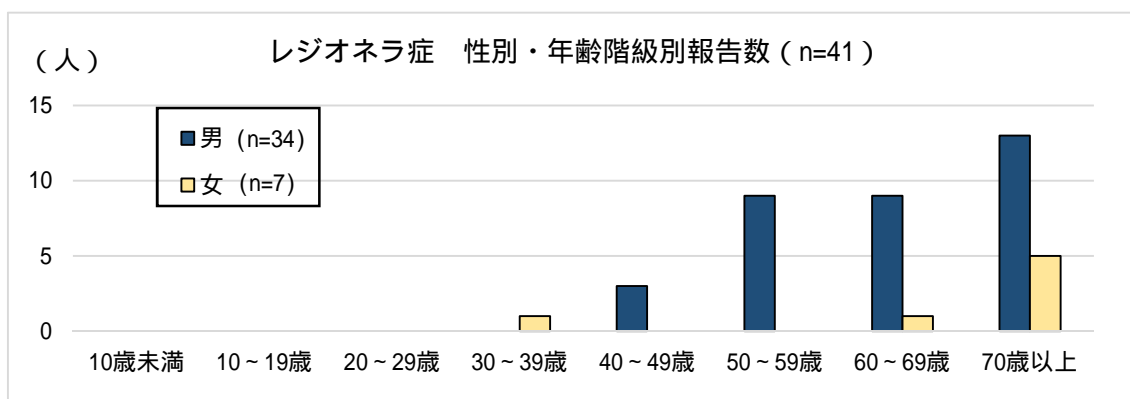
オ マラリア

2018年は5人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は20～29歳3人、30～39歳1人、50～59歳1人であった。病型は熱帯熱マラリア3人、卵形マラリア2人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はナイジェリア2人、マラウィ1人、コンゴ共和国1人、カメルーンかトーゴかブルキナファソ1人であった。

カ レジオネラ症

2018年は41人の報告があった。病型はすべて肺炎型であった。性別は男性34人、女性7人、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳3人、50～59歳9人、60～69歳10人、70歳以上18人であった。

推定感染地は国内30人、国外2人、不明9人で、国外感染例の推定感染国は米国（グアム）とタイであった。推定感染経路は水系感染14人、不明27人であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは9人、プールでの感染と推定されたのは1人であった。



キ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

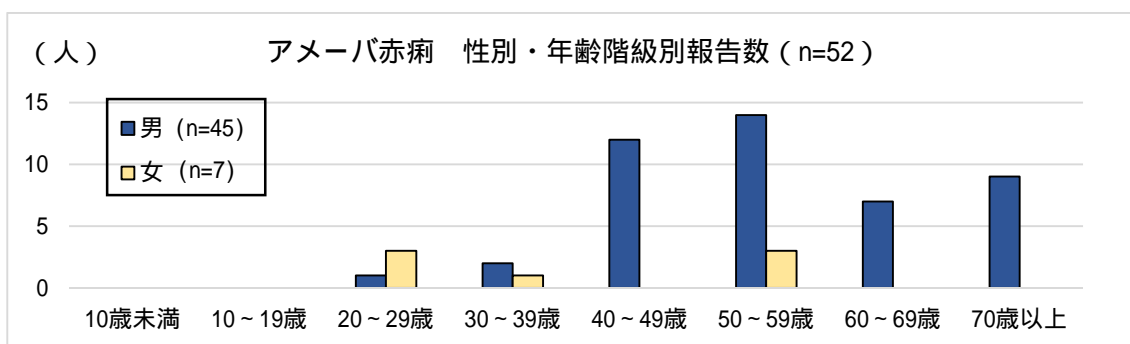
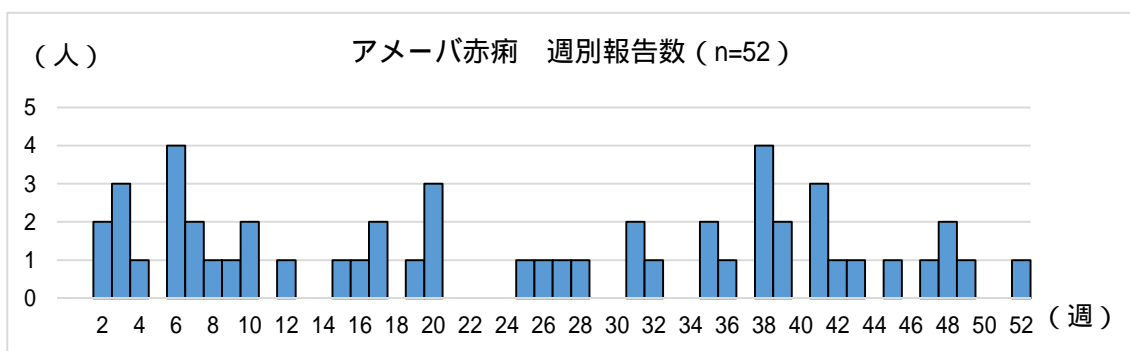
(5) 五類感染症(全数把握対象)

ア アメーバ赤痢

2018年は52人の報告があった。腸管アメーバ症48人、腸管外アメーバ症2人、腸管及び腸管外アメーバ症2人であった。性別は男性45人、女性7人で、年齢階級別では20～29歳4人、30～39歳3人、40～49歳12人、50～59歳17人、60～69歳7人、70歳以上9人であった。

推定感染地は国内36人、国外7人、国内又は国外3人、不明6人であり、国外感染例7人の推定感染国は香港2人、フィリピン1人、モロッコ1人、不明が3人であった。

推定感染経路は、性的接触17人(同性間3人、異性間11人、性別不明3人)、経口感染5人、性的接触または経口感染3人、不明27人であった。



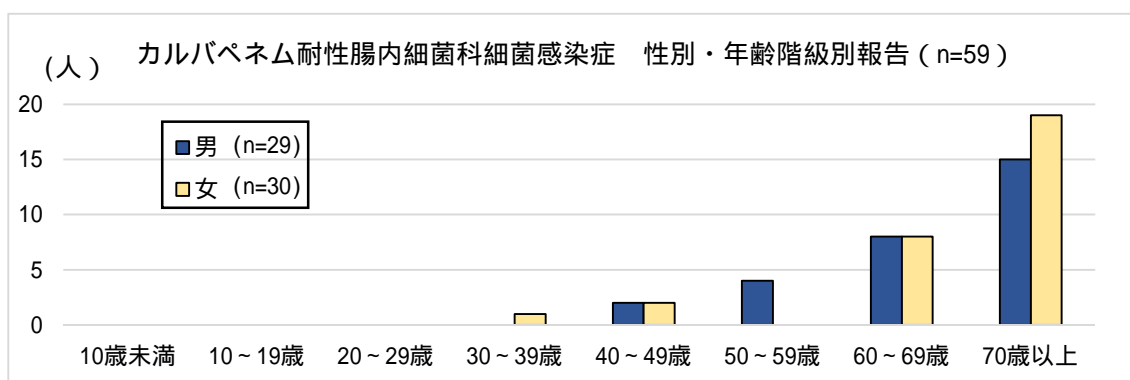
イ ウイルス性肝炎(E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。)

2018 年は 5 人の報告があった。病型は B 型肝炎が 4 人、サイトメガロウイルス 1 人であった。性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 1 人、60～69 歳 1 人であった。

推定感染地は国内が 3 人、国内又は国外 1 人、不明 1 人で、推定感染経路は性的接触 4 人(同性間 1 人、異性間 3 人)、不明 1 人であった。

ウ カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症

2018 年は 59 人の報告があった。性別は男性 29 人、女性 30 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、40～49 歳 4 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 16 人、70 歳以上 34 人であった。推定感染地は国内 52 人、不明 7 人であった。



カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症 分離菌種 (n=59)

菌種	分離件数	菌種	分離件数
<i>E.coli</i>	10	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	4
<i>Citrobacter freundii</i>	2	<i>Klebsiella oxytoca</i>	1
<i>Citrobacter species</i>	1	<i>Serratia marcescens</i>	8
<i>Enterobacter cloacae</i>	16	<i>Serratia ficaria</i>	1
<i>Enterobacter cloacae complex</i>	2	<i>Morganella morganii</i>	1
<i>Enterobacter aerogenes</i>	13		

エ 急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

2018 年は 5 人の報告があった。性別は男性 2 人、女性 3 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人(1 歳)、70～79 歳 4 人であった。

推定感染地は国内が 4 人、不明が 1 人であった。病原体は単純ヘルペスウイルス 2 人、帯状疱疹ウイルス 1 人、不明 2 人であった。

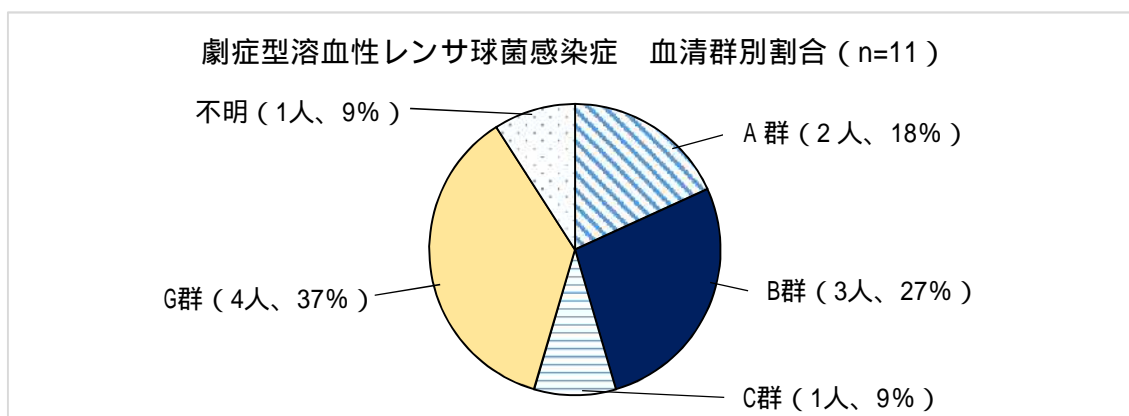
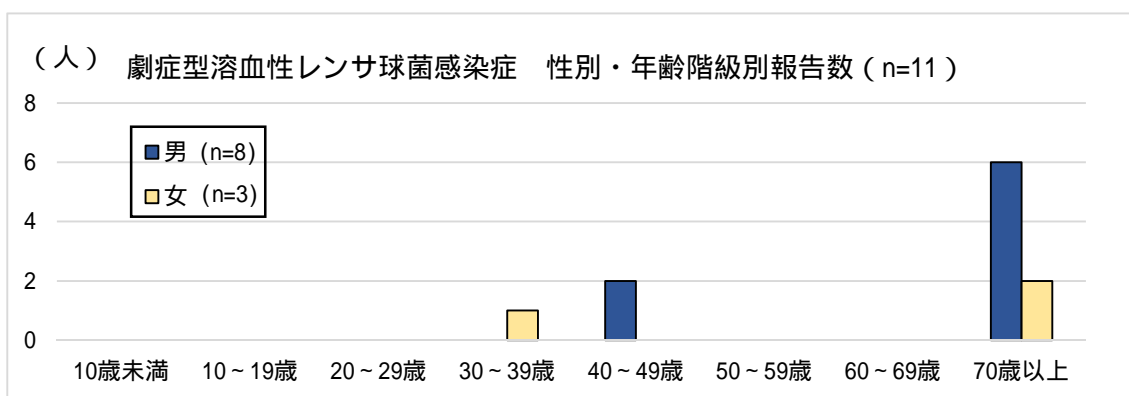
オ クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)

2018 年は 6 人の報告があった。古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（ほぼ確定）が 5 人、(疑い)が 1 人であった。性別は男性 4 人、女性 2 人で、年齢階級は 40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、70 歳以上 3 人であった。

カ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2018 年は 11 人の報告があった。性別は男性 8 人、女性 3 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、40～49 歳 2 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 4 人、接触感染 1 人、不明 6 人であった。



キ 後天性免疫不全症候群

2018 年は 123 人の報告があり、AIDS 患者 28 人、HIV 感染者 95 人（指標疾患以外の有症者 16 人、無症候性キャリア 79 人）であった。

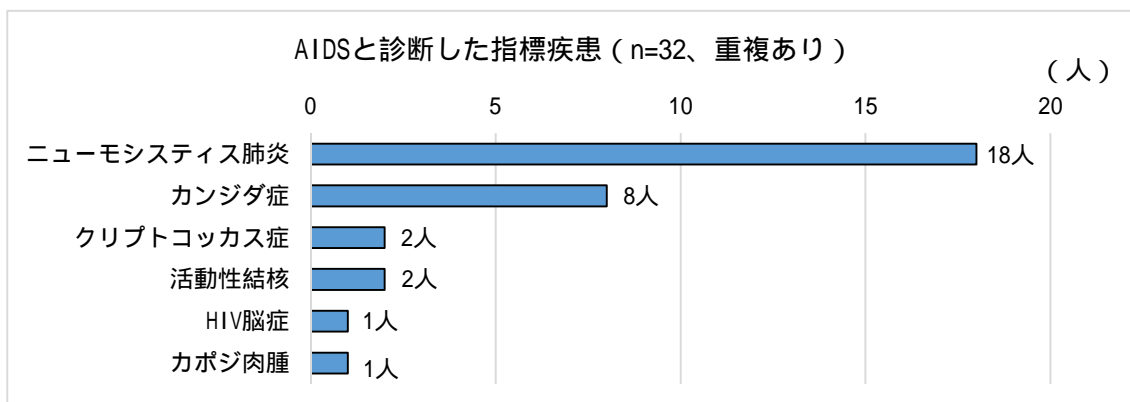
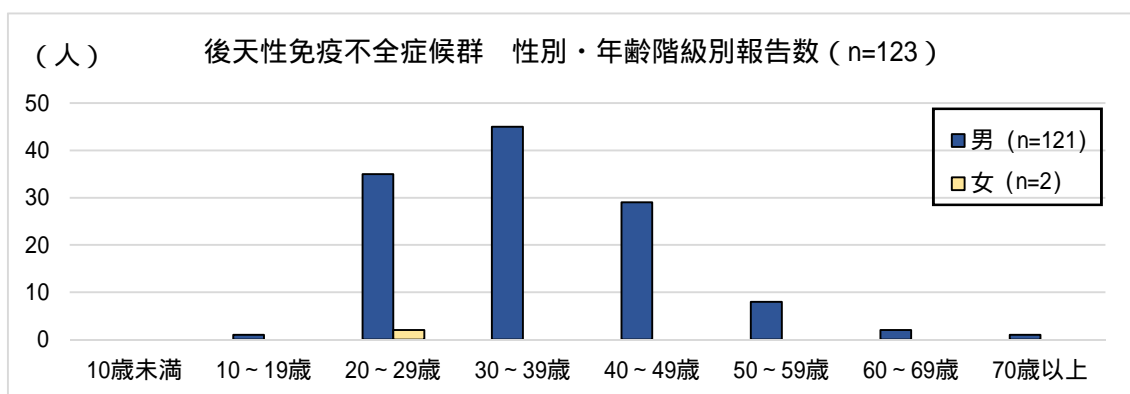
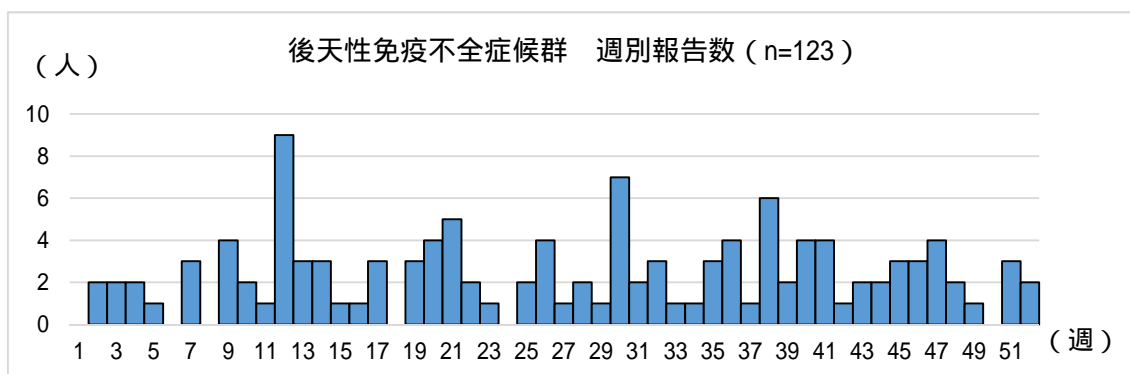
AIDS 患者 28 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 3 人、30～39 歳 9 人、40～49 歳 11 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 1 人であった。

HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 16 人の性別はすべて男性で、年齢階級別では 20～29 歳 6 人、30～39 歳 5 人、40～49 歳 4 人、60～69 歳 1 人であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 79 人の性別は男性 77 人、女性 2 人で、年齢階級別では 10～19 歳 1 人、20～29 歳 28 人、30～39 歳 31 人、40～49 歳 14 人、50～59 歳 4 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 108 人、国外 7 人、不明 8 人であった。国外感染例 7 人の推定感染国別に見ると中国、シンガポール、タイ、オーストラリア、マリが各 1 人で、渡航先不明が 2 人であった。

推定感染経路は性的接触 111 人（同性間 97 人、異性間 11 人、性別不明 3 人）、2 経路以上 1 人（同性間性的接触又は静注薬物使用）、血液との接触 1 人、不明 10 人であった。



ク ジアルジア症

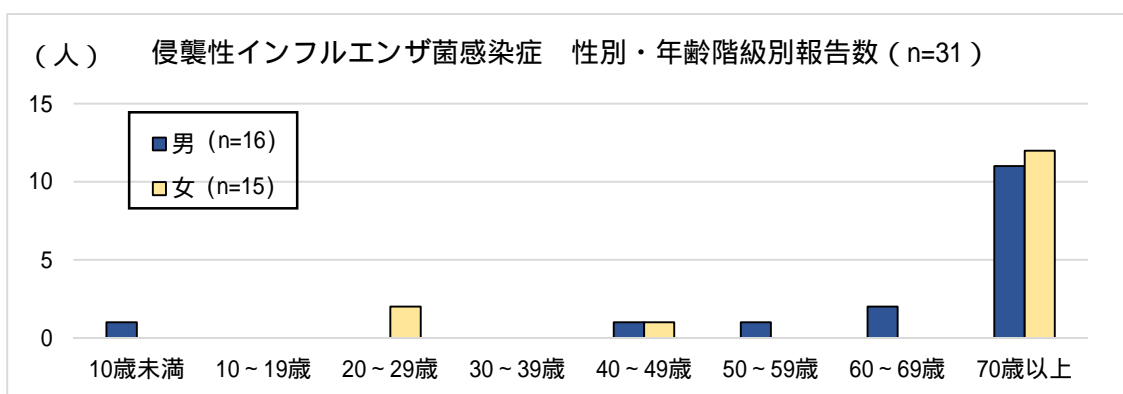
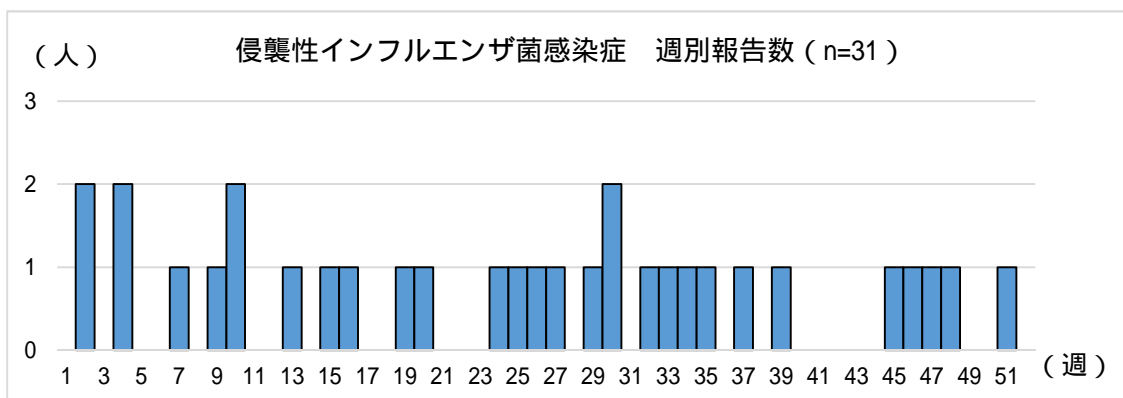
2018 年は 2 人の報告があった。性別はすべて男性で、年齢階級別では 40～49 歳が 1 人、50～59 歳 1 人であった。

推定感染地はいずれも国内であった。

ケ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2018 年は 31 人の報告があった。性別は男性 16 人、女性 15 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人(1 歳)、20～29 歳 2 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 23 人であった。

推定感染地は国内が 30 人、不明が 1 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 8 人、接触感染 2 人、その他 2 人、不明 19 人であった。Hib ワクチン接種歴は 4 回接種が 1 人、接種なし 4 人、不明 26 人であった。



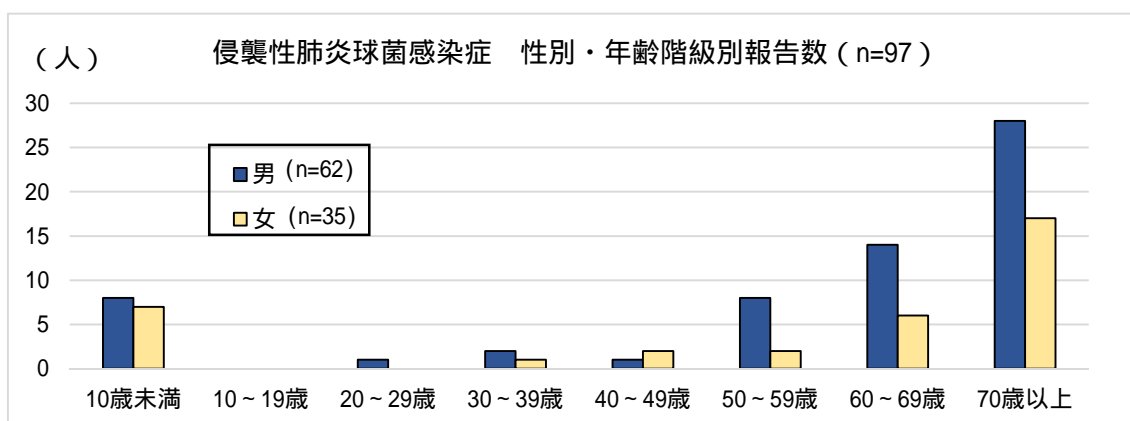
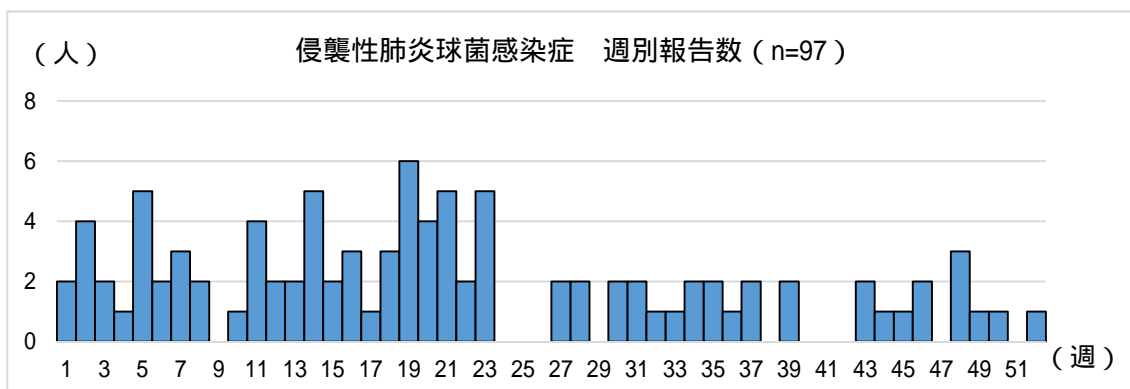
コ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2018 年は 2 人の報告があった。性別はすべて女性で、年齢階級別では 60～69 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。推定感染地、推定感染経路、ワクチン接種歴はいずれも不明であった。血清型はいずれも Y 群であった。

サ 侵襲性肺炎球菌感染症

2018年は97人の報告があった。性別は男性62人、女性35人であった。年齢階級別では10歳未満15人(すべて5歳未満)、20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳3人、50～59歳10人、60～69歳20人、70歳以上45人であった。

推定感染地は国内92人、不明5人であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染40人、接触感染2人、その他2人、不明53人であった。ワクチン接種歴は4回接種13人、3回接種1人、2回接種0人、1回接種6人、接種なし32人、不明45人であった。



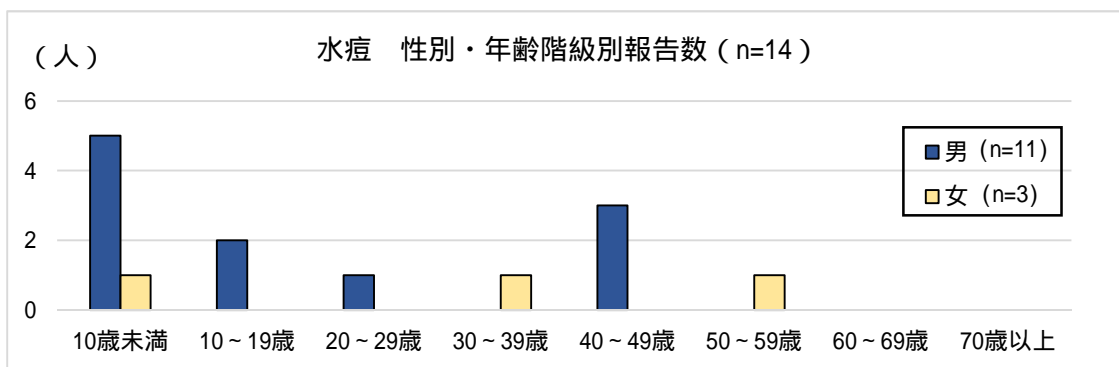
年齢階級別・ワクチン接種歴 (n=97)

	4回接種	3回接種	2回接種	1回接種	接種なし	不明	合計
5歳未満	13	1				1	15
5～9歳							0
10～64歳					11	14	25
65歳以上				6	21	30	57
合計	13	1	0	6	32	45	97

シ 水痘(入院例)

2018年は14人の報告があった。性別は男性11人、女性3人で、年齢階級別では10歳未満6人、10～19歳2人、20～29歳1人、30～39歳1人、40～49歳3人、50～59歳1人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染6人、不明8人であった。ワクチン接種歴は接種なし7人、不明7人であった。

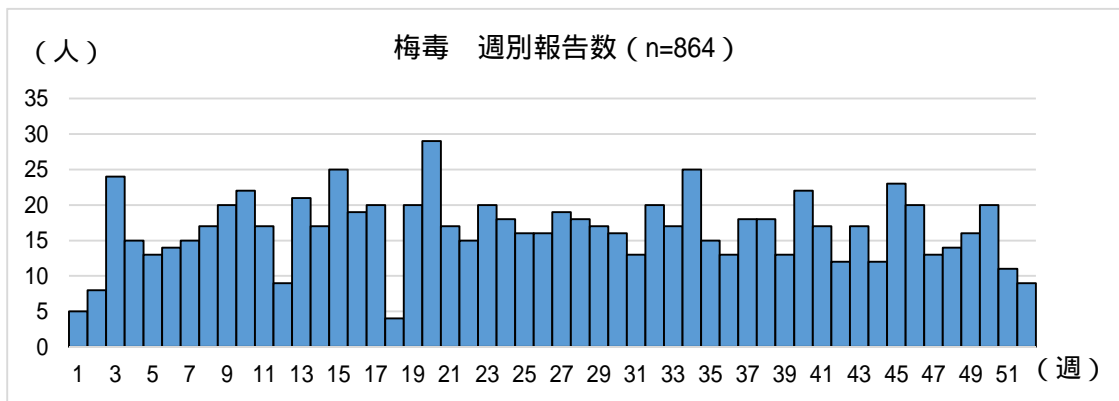


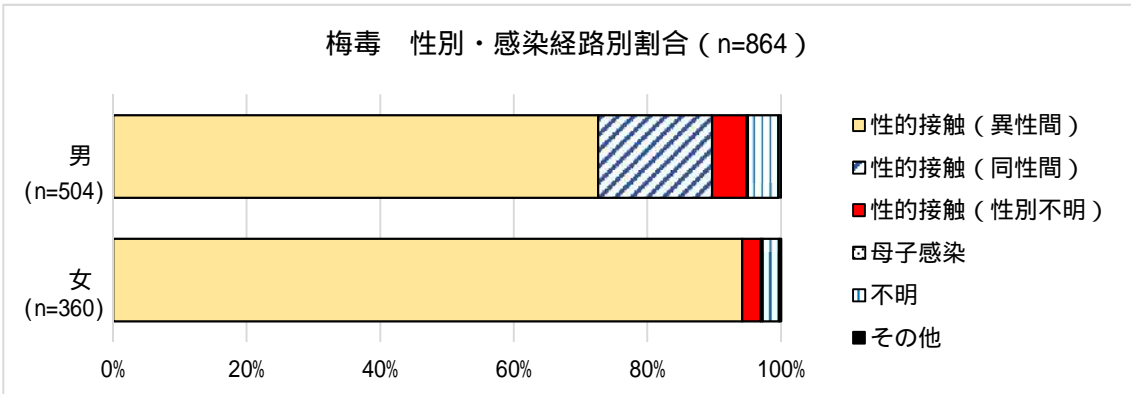
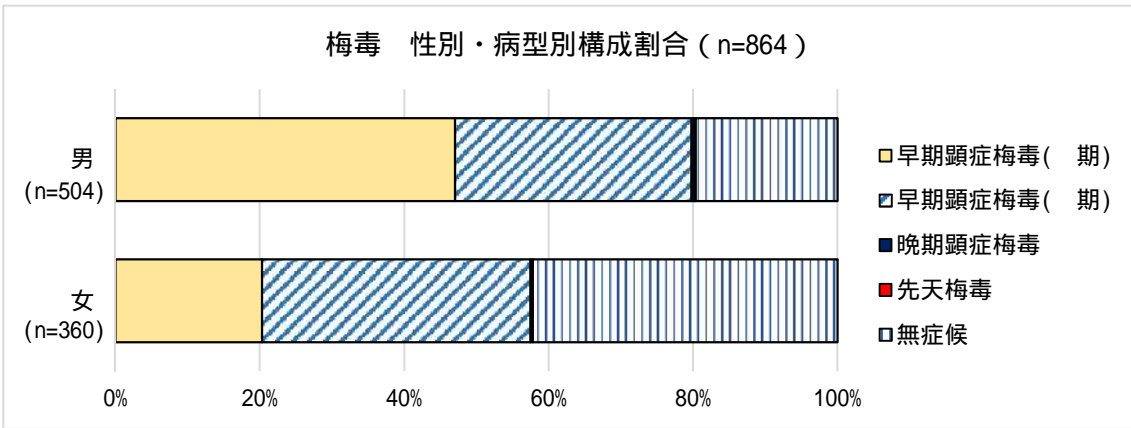
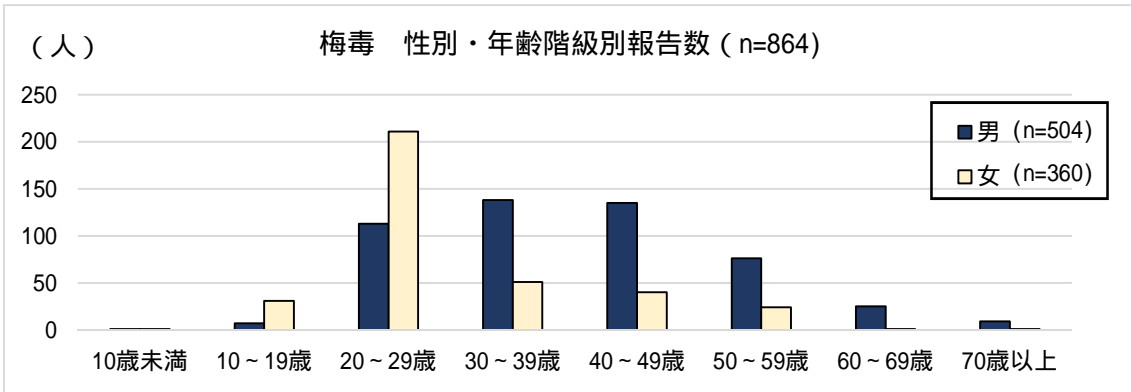
ス 梅毒

2018年は864人の報告があり、2017年の635人を上回り1999年以来最多となった。病型別では早期顕症梅毒 期 310人、早期顕症梅毒 期 299人、晩期顕症梅毒 2人、先天梅毒 2人、無症候 251人であった。性別は男性504人、女性360人であった。年齢階級別では10歳未満2人(いずれも0歳)、10～19歳38人、20～29歳324人、30～39歳189人、40～49歳175人、50～59歳100人、60～69歳26人、70歳以上10人で、20～59歳の男性が462人で全感染者の53.5%を占めた。一方、20～29歳では、324人のうち女性が211人で65.1%を占めた。

推定感染地は国内828人、国外6人、国内又は国外6人、不明24人であり、国外感染例4人の推定感染国は中国3人、韓国、ミャンマーが各1人、不明が1人であった。

推定感染経路は性的接触826人(異性間704人、同性間86人、性別不明36人)、母子感染2人、針等の鋭利なものの刺入による感染2人、その他1人、不明33人であった。





セ 播種性クリプトコックス症

2018年は5例の報告があった。性別は男性3人、女性2人であった。年齢階級別では50～59歳1人、70歳以上4人であった。推定感染地は全て国内であった。推定感染原因・感染経路は鳥類の糞などとの接触1人、免疫不全4人であった。

ソ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

2018 年は 4 人の報告があった。性別は男性 3 人、女性 1 人、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 2 人であった。

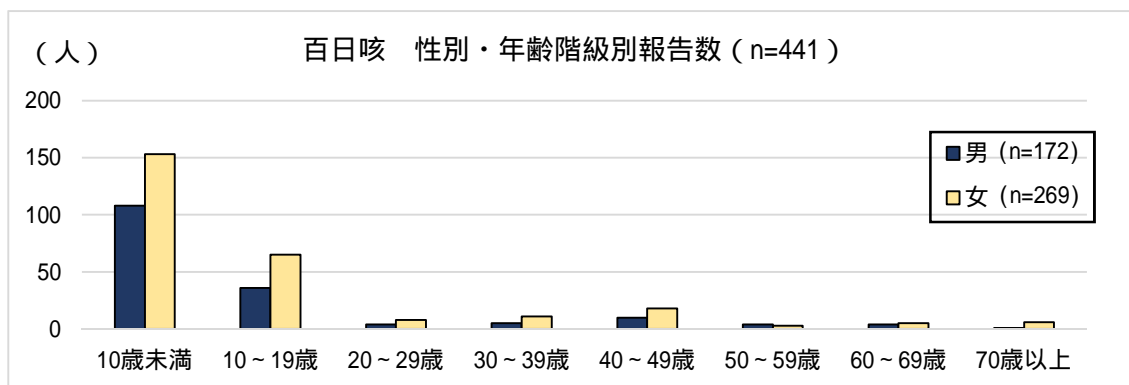
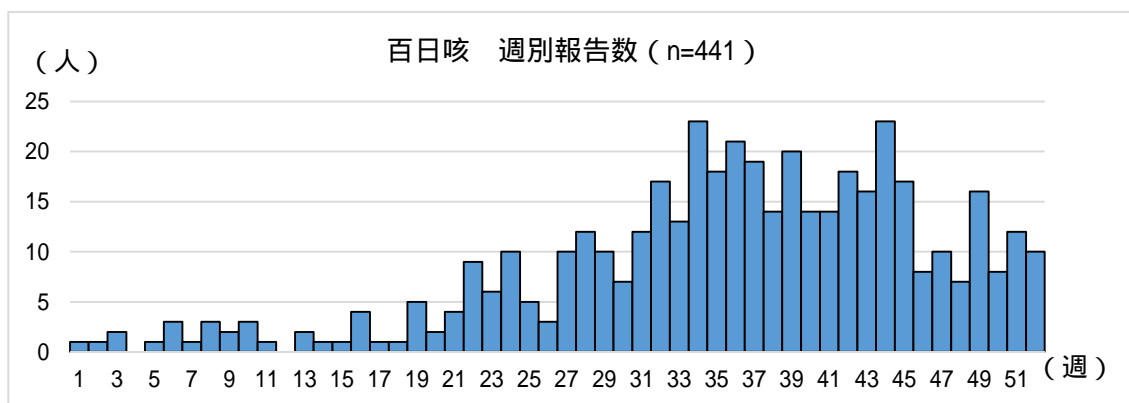
菌種はすべて *Enterococcus faecium* 3 人、*Enterococcus faecalis* 1 人、耐性遺伝子は *vanA* が 2 人、不明 2 人であった。

推定感染地は国内 2 人、国外 (米国) 1 人、不明 1 人であった。推定感染経路はもとの保菌 1 人、手術による感染 1 人、免疫不全 1 人、不明 1 人であった。

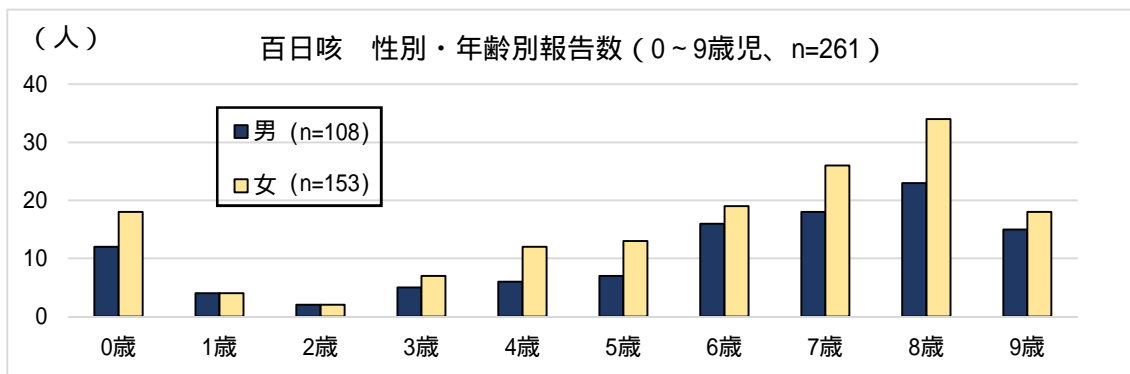
タ 百日咳

百日咳は 2018 年 1 月 1 日に 5 類感染症の小児科定点把握疾患から 5 類感染症の全数把握疾患に改正された。届出対象は、症状や所見から百日咳が疑われ、かつ原則検査診断により百日咳患者と診断された患者である。これにより、成人も含めた百日咳患者の診断方法、感染原因・感染経路 (家族内感染や流行の有無)、ワクチン接種歴等を含む詳細な疫学情報が把握可能となった。

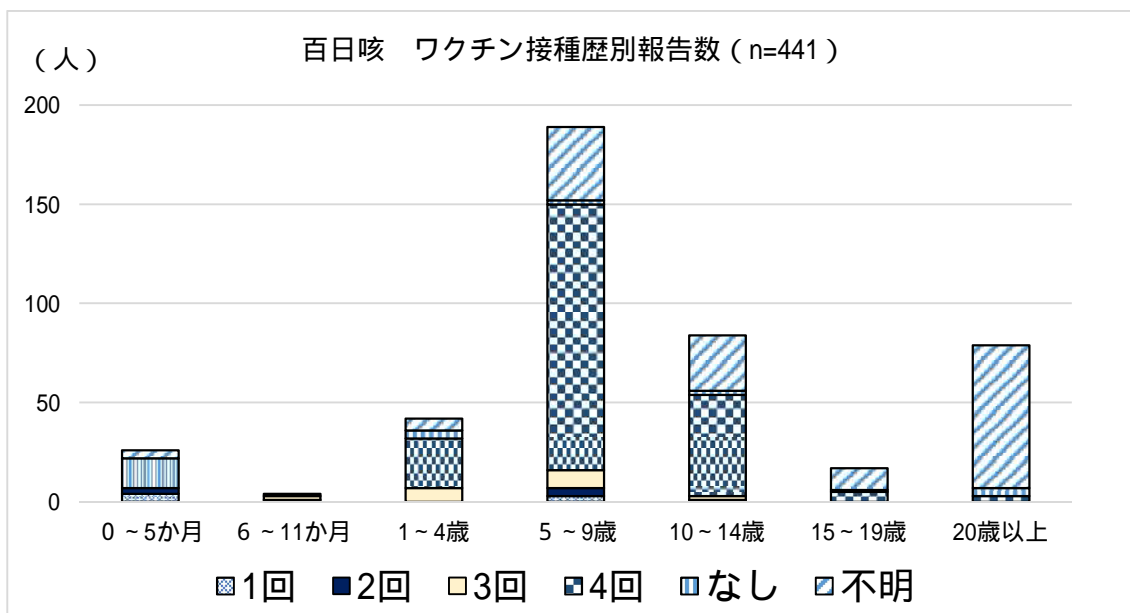
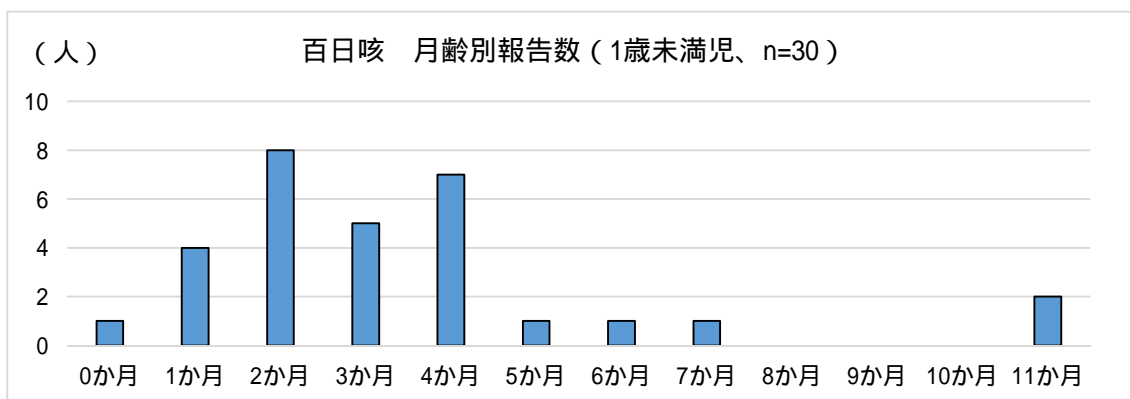
2018 年は 441 人の患者が報告された。疫学週別では第 22 週頃から報告数が増加した。性別は男性 172 人、女性 269 人で、年齢階級別では 10 歳未満 261 人 (59%)、10～19 歳 101 人 (23%)、20～29 歳 12 人 (3%)、30～39 歳 16 人 (4%)、40～49 歳 28 人 (6%)、50～59 歳 7 人 (2%)、60～69 歳 9 人 (2%)、70 歳以上 7 人 (2%) であった。0～14 歳までの小児患者報告数は 345 人で、全報告数の 78% を占めた。



年齢階級別で最も患者報告数の多かった10歳未満の小児患者261人のうち、0歳30人、1歳8人、2歳4人、3歳12人、4歳18人、5歳20人、6歳35人、7歳44人、8歳57人、9歳33人であり、0歳および8歳で二峰性のピークを認めた。



最も重症化しやすいとれる6か月未満の月齢の患者数は、26人で全報告数の6%を占めた。これらの患者の感染原因・感染経路は、15人(58%)が家族内感染(父親、母親、同胞、同居のいとこ)で、その他は不明であった。



百日咳含有ワクチン接種歴別では、4回以上接種歴のある患者が218人で全報告数の49%を占めた。1~4歳、5~9歳、10~14歳のワクチン既接種者はそれぞれ25人、134人、51人であり、この年代の小児患者の過半数がワクチン既接種者であった。

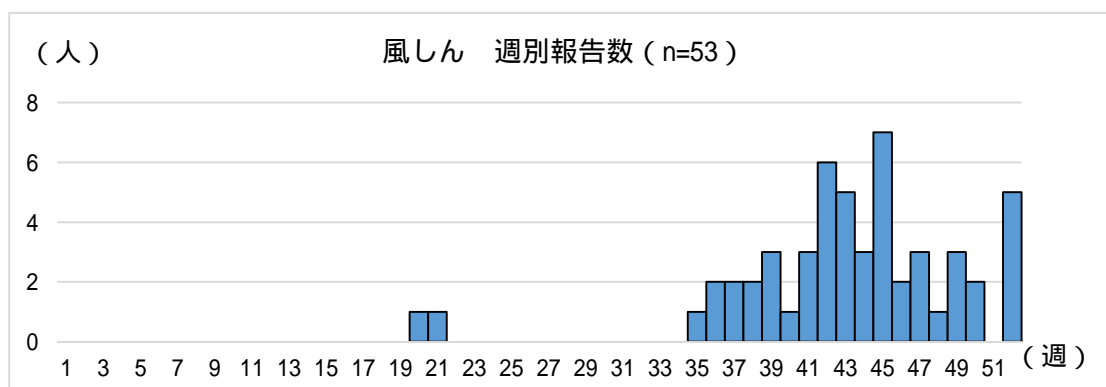
診断方法(重複あり)は、遺伝子検査が256人(58%)と最多であった。遺伝子検査の内訳は、LAMP法238人(54%)、PCR法16人(4%)、検査法不明2人であった。次いで血清抗体価検査による診断が184人(42%)であり、抗体検査の内訳は、抗PT-IgG抗体が104人(24%)、抗百日咳菌IgM抗体が55人(12%)、抗百日咳菌IgA抗体が9人(2%)、抗百日咳菌IgM、IgA抗体が16人(4%)であった。また、分離・同定は6人(1%)、ペア血清による抗体陽転または抗体価有意上昇は2人(0.5%)、臨床決定が10人(2%)であった。臨床決定された患者はいずれも感染原因・感染経路で、家族内感染もしくは学校での流行があると報告され、確定例との接触が疑われる患者であった。

推定感染地は国内389人(88%)、国外1人、国内又は国外が2人、不明49人であり、国外感染例の推定感染国はオーストラリアであった。

チ 風しん

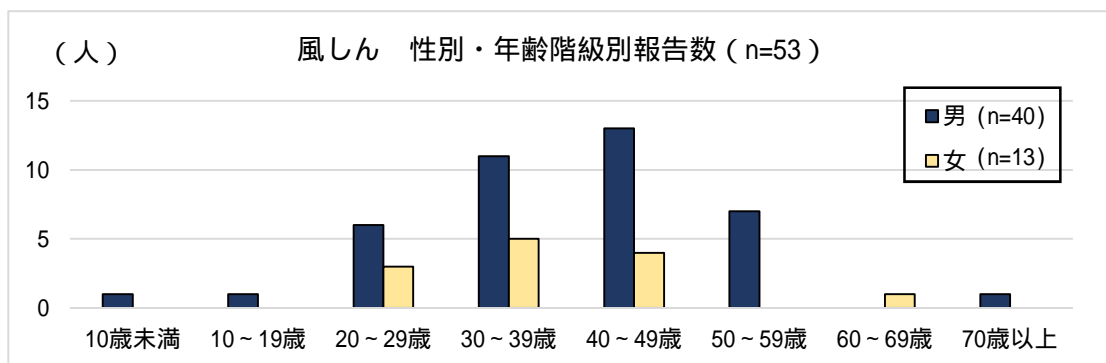
風しんは法令および予防指針の改正により、2018年1月1日以降、医師は風しんと臨床診断した時点で直ちに届出を行うこと、原則として全例にウイルス遺伝子検査を実施すること、風しん患者が1例でも発生した場合には積極的疫学調査を行うことが求められるようになった。「風しんに関する特定感染症予防指針(厚生労働省告示第百二十二号:平成26年3月28日)」では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和2年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としている。

2018年は53人の報告があり、第35週以降に報告数が増加した。過去10年の報告数の推移をみると、2008年5人、2009年4人、2010年1人、2011年17人、2012年207人、2013年1388人、2014年9人、2015年6人、2016年6人、2017年8人であり、2018年は2012年~2013年の流行以降で最も多い報告数となった。



性別は男性40人(75%)、女性13人(25%)で、男女比3対1であった。年齢階級別では10歳未満1人(2%)、10~19歳1人(2%)、20~29歳9人(17%)、30~39歳16人(30%)、40

～49 歳 17 人(32%)、50～59 歳 7 人(13%)、60～69 歳 1 人(2%)、70 歳以上 1 人(2%)であった。男性患者では 20 歳代～50 歳代が 37 人(93%)と大多数を占めた。一方、女性患者では 20 歳代～40 歳代が 12 人(92%)と大多数を占めた。



病型は検査診断例が 51 人(96%)、臨床診断例 2 人(4%)であった。検査診断例の検査方法の内訳(重複あり)は、PCR 法によるウイルス遺伝子の検出が 33 人、血清 IgM 抗体の検出が 41 人、ペア血清での抗体の検出が 1 人であった。臨床診断例のうち 1 人は、感染原因・感染経路に会社で流行と報告された。

風しん含有ワクチン接種歴は、1 回接種 3 人(6%)、接種歴なし 14 人(26%)、不明 36 人(68%)であり、2 回接種歴のある患者の報告はなかった。

推定感染地は国内 37 人(70%)、国外 1 人(2%)、不明 15 人(28%)であった。国外感染例の推定感染国はカンボジアであった。

ツ 麻しん

2018 年は 5 人の報告があった。いずれも検査診断例であった。性別は男性 2 人、女性 3 人で、年齢階級は 10 歳未満 1 人(0 歳)、20～29 歳 3 人、50～59 歳 1 人であった。推定感染地は国内 3 人、国外 1 人、不明 1 人で、国外感染例の感染推定国はベトナムであった。麻しん含有ワクチン接種歴は 2 回接種 1 人、1 回接種 1 人、接種なし 1 人、不明 2 人であった。

テ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、クリプトスポリジウム症、先天性風しん症候群(CRS)、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症